

平成22年度 兵庫県外国人県民共生会議議事録

- 1 日 時 平成22年12月6日(月) 13:00~14:30
- 2 場 所 海外移住と文化の交流センター 5Fホール
- 3 議 題 「外国人県民の子ども達の安定した暮らしと環境について」

今回は各地から、姫路、朝来、淡路から、地方はどうかということをお聞きしたくて来ていただいた。こういう施策を見て何か思うところがあれば。

淡路市から来た。私自身は子どもがまだ小さく、保育園等でのコミュニケーションなどの問題は感じていない。周りでは言語の問題がよく取り上げられている。

姫路市に住んでいる。言葉の問題と友達がなかなかできないという問題がある。学校でも外国人の子どもと仲良く遊べるようになるのが大切。姫路では外国人に対して沢山の支援があり、外国人にとってとても幸せだと思う。住む場所ではなく、個人個人が大切。周りが良い環境を作る事ができると思う。

朝来市に住んで9年、上の子は小学生、下の子は幼稚園で特に困ることは無い。周りの人達も子どもに目を配っていてくれて、子どもも仲良くしてくれて、とても助かっている。大人もケンカもせずに、すごく仲良くしてくれるので、安心して住めている。

私は、子どもが生まれて10ヶ月。住んでいる所は、国際的な場所で外国人が多いので、違和感を感じていない。市の幼稚園に申し込んでいるがウェイティングリストに登録して待っている。すぐ入れないとは知らなかったので、何ヶ月待たないといけないかが心配。私が仕事を、主人が子育て・家事をしていて、仕事場で理解してくれるかどうか心配。日本の関係とは逆みたいでいつも説明しないといけない。

長年住んでいると色々な課題と問題が出てくる。今、子ども達がポルトガル語教室に30人来ている。京都・大阪からも来ている。子ども達を見ていたら、居場所、集まれる場所があるという事を楽しみにしている。

10人が宝塚から来ており、最近すごく元気になってきた。仲間と一緒に勉強したり遊んだりするのがすごく大切だと思う。

事件があった時、子ども達も親達もとても寂しく、悲しい感じだった。でも今はすごく元気になっている。

私たちは、なるべく子ども達に、ポルトガル語や日本語の勉強だけでなく、色々な体験をさせている。ブラジルの物語や人を学び、自分たち国の情報・知識を持っていくなかで、色々な生活が出来ていくのではないかなと思う。

宝塚の話が出たが、スクールカウンセラーなど教育委員会は特別な支援をしたのでは。

基本的には心の支援とか、教育相談体制、義務教育課でスクールカウンセラーを一定期間雇って派遣すると共に、子ども多文化共生サポーターを特別派遣した。市教委の要請に応じて3ヶ月で80時間、現在12月まで追加派遣している。要請があれば1月以降も特別対応を継続するつもりでいる。

学校、幼稚園など、色々援助頂いている事に感謝したい。相談窓口を設けたり、様々な施策を講じて頂いている。特に学校や幼稚園の関係で当方に相談に来られた時に、兵庫県の取り組み、悩みの相談窓口があるということをもっと知らせていかないと勿体ないと感じる。

医療通訳に関しては、2003年くらいから取り組み始めている。医療通訳をする場合、普通の通訳料金だと高額になるので、なかなか安心して利用できないので、仕組み作りが大切。病院の意識はまちまちで、通訳サービスを病院自身のサービスと考えないで、患者さんの自己責任ととらえる所が大変多い。けれどもどんな人も医療を安心して受けられるという前提が必要。医療機関向けのセミナー、分かりやすいパンフレットの配布等をする。NGO、行政機関など色々な人が一緒になって仕組みを作れば可能になると思う。

日本で生まれた子どもが、社会の中で日本語を使い、家庭では違う言語だと、言語形成が非常に遅れる。2～3歳になっても言葉を発せず、言語形成がノーマルな状態でない。言葉が遅いので、精神的に不安定になったりもする。日本では、これを自閉症と判断されている。本当の自閉症という場合もあるが、言語の環境の問題で間違った診断されてしまうという相談が増えている。両方の言葉でカウンセリングをする専門家が必要なのではないか。医療通訳にも関わるのが、言葉の壁があるために心理的な対応が遅れているという事。

子どもセンターという所で、家庭の中でのトラブル、外国の方の相談も受けているが、二カ国語で対応できる専門家が育っていない。英語と日本語でも難しい状況だ。色々な問題も含めて対応ができるかどうか。兵庫県には心のケアセンターという心のケアの専門機関があるので、相談窓口として可能かどうか検討したい。

小学校6年生のある子どもの相談では、妹が小学校に入るが、ベトナムの名前で入ると必ずいじめられるので日本の名前を付けて欲しいというのがあった。1996年の神戸市の資料では、145人のベトナム人の子ども達のうち133人、91%以上が民族名で学校に行っている。去年は165名在籍のうちベトナム人の名前は74人、50%切っている。兵庫県は民族名をと言っているが、外国人の子どもたちに人権の教育がきちんと保証されているのか。本名で社会に出て行ける、高校を卒業できる、高校生活を継続できるように支援することが必要。ニューカマーが高校に入ったけれども経済的な理由、授業についていけないということで継続できない。その手前の高校に入学できるということ、小さい時から学習支援を受けて高めていくことが必要。高校で外国人入学枠みたいな制度をつくらないと。

外国人児童に対してのプログラムはいろいろがあるが、支援をあまり使っていないと思った。特に子どもがたくさん住んでいる地域は受けているが、田舎ではこのようなサービスを受けているか心配なことがある。都心部から離れて住んでいる子ども達に必要なではないかとかかなり感じた。

外国人の子どもの障害児の問題は前からあった。自閉症とかいろんな障害を持っている子どもが居るが、親が理解できていない。冊子から見ると障害児支援はいろいろプログラムがあっても外国人の親が制度を理解できたかどうか。使っているかが大事。わからない、認めたくないで治療が遅れてしまう。実際仲良し学級に入れてくれないため普通の学級に行かせていることがよくある。

子ども達の発達障害が大きな問題になっているので何とかしないといけない。日本語が理解できない子どもたちは41人となっているが、兵庫県内だけでももっといる。サポーター支援で日本に来てから3年間支援を受けられるが、終わってもサポートが必要。子ども1人1人の成長に合わせて期間について考えて欲しい。

これからは子ども達のための支援活動をきちんと外国人の親にも伝えなければならない。支援をやっても外国人が知らなければ意味がない。子どもが学校で手紙をもらっても親まで伝わらない。コミュニティの団体を通して直接ご両親に情報を発送するようにした方がいい。

少し問題が違つかもしれないが、日本では公園以外、道路などで遊ぶことがあまりない。近所の人も知らない。ほとんどの子どもが挨拶はしない。田舎と街の違いかなと思うが、オランダの街に行くと私が全然会ったことない子でも皆挨拶をされた。

日本にはまちづくりの大きな問題がある。住みやすい街ではなく車が通りやすい街になっている。安全な街、遊べる街が必要。公園もあまりない。

また、子どもをどうするかというプログラムはあるが、子どもが自分自身でどうするかというプログラムがあまりない。

在日朝鮮人の中で一番の問題は「高校無償化」。これは国の問題だが、現在唯一朝鮮学校が外されている。

朝鮮学校は、多文化共生社会を担う子どもたちを育てている学校であるという事で理解を頂きたい。

兵庫放課後プラン事業の推進、放課後の子どもの安全安心な居場所作りは、外国人学校でも切実な問題。公立小学校中心だと、外国人学校が参加しづらい。外国人学校でも制度を利用できるシステム作りをお願いしたい。

今の問題はどうか？

所管を確認して回答させていただく。ただ、2点ご確認いただきたい。

子ども多文化共生サポーター派遣事業は、3年までとなっているが、3年を超えても個別に特別配慮の中で追加派遣をしている。あるいは、5、6年となる人は国費で就学支援費という形で別の事業で支援している。もしこういったケースがあれば、個別協議となっているので市教委の方からあげていただければ対応させていただく。

兵庫放課後プランの実施場所は外国人学校では認可されていない。しかし、これは小学生の居場所を作るという事で、在住している子どもなら、だれでも参加可能。

学校・地域・外国人コミュニティでは、外国人児童生徒が学校の中で健やかに勉強できる環境が一番大事。制度と同時に学校の風土や空気感を作り出すことが非常に大事。友達に日本語を教えてもらうなど、友達関係で救われる部分がある。

先生がプロフェッショナルになって保障していくという取り組み。難しい事とは思いますが、この事の基準を明確に持って先生も鍛錬され、理解を深める事が大事。先生自らが外国のことについて違いを理解しなければいけないし、率先して生徒を誘導するくらいのことがないと駄目。

違いを受け入れるのは外国人対日本人もあるが、日本人同士でも当然ある。生まれ育った場所で違うという違いについて、風土づくりをやっていかなければならない。日常的な生徒に対する意識付けや風土作りが出来てくると、制度が不十分であったとしても救われる部分があるのではないかと。そういう意識を全体で持つ事が必要。

外国人相談事業をやっている。例えば、在留資格の問題等にも取り組んでいる。子どもの年齢によって親だけが強制送還されて子どもが決断を迫られるという事があった。小さい時に強制送還されたらすぐに馴染んで普通にくらしているけれども、上の子はそうでなかった、しかし逆に日本語が出来るので日本語ガイドとして儲けているという話も聞く。子どもの社会の教育環境、あるいはDVの問題も当然子どものテーマだが、子ども達の可能性を考えた施策をしたら。

このセンターの中にある多文化共生の部屋がオープンした。世界から神戸へという多文化共生関連の施設が、阪神大震災と多文化共生神戸で生まれ育ったということ。

放課後プランに登録して半年くらいして辞めるケースが沢山あった。受け入れる側の準備が出来ていなかったという事が理由。もっと、住む地域に外国人の生徒が沢山いると知るべき。言葉の問題もある。例えば母子手帳の中に、相談先を加えるなど、困ったら、どこに相談したら良いかを書くべき。

今のお話を伺っていると、行政の取り組みが知られていない事が多い。これも、コミュニケーションギャップの可能性が高いという事が一つ。豊富な情報があるにも関わらず十分に知られていないこと。それから、もう少しうまく利用できる制度があるのに利用できないまま放置されている、外国人にも利用してもらえるにも関わらず知られていないという事があるので、やはりどう周知を図るかという事が非常に重要。単に紙媒体を使う事が良い訳では無いでしょうから、例えばこの多文化共生センターなどが情報センターになりうるだろうし、FM放送にコマーシャルを入れるという様な事も考えていくのも重要なのではないかと感じた。

今回は子どもを向いての議論だった訳だが、非常に難しいのは、ユニバーサル社会作りということ。一言で言う事は簡単だが、色んなバリアだとか、課題があるので、それをどう乗り越えていくか、筋道を一つ一つつけて頂く。課題とかバリアを整理してそれぞれにどうアプローチするかという姿勢が大切と思う。

兵庫県は、他の地域よりは、ユニバーサル度が高い地域ではないかと思うし、それだけの許容量がある地域だと思うので、努力を続けたい。問題があったら教えていただき、通報して頂く仕掛けが必要だと思う。今日は色々と情報を提供をいただきありがとうございました。